

南アルプス市立豊小学校 学校関係者評価書

平成21年1月26日

南アルプス市立豊小学校関係者評価委員会作成

第一回学校関係者評価委員会

実施日 平成21年1月22日(木)

会場 南アルプス市立豊小学校長室

参加者

<学校関係者評価委員>

梅本澄雄・足達輝夫・澤登政仁・名取眞佐恵(以上学校評議員)

高野政文(P T A会長) 佐久間元美(P T A副会長) 塩沢千絵(P T A副会長)

<学校職員>

校長・清水秀幸 教頭・花輪栄治 教務主任・小西 一彦

1 学校からの説明

- ・経過説明 本事業の趣旨説明・委嘱状の交付(校長)
- ・学校経営について 校長
- ・学校概要について 教頭
- ・学校評価の説明 教務主任

2 協議された主な内容

教職員内部評価と児童評価(各1・2学期分)と保護者評価について、学校側から概要の説明を受けてから、学校関係者評価委員の協議に入った。

I 全体評価

評価は4段階に設定しており、評価結果が、「そう思う」「そう思わない」に大別できるので考察に有効である。

◎教職員内部評価の項目は、「教育目標」「学校経営・組織」「学習指導」「道徳」「特別活動」「学校行事」「生徒指導」「生活指導」「勤務」「P T A・地域社会」「その他」の11項目である。

どの項目の評価も、1学期の評価の考察反省に基づき、目標達成への教育活動の実践と工夫努力の跡が見られ、適切な学校運営、円滑な教育活動が進められていると思われる。

◎全校児童へのアンケートは、「学校」「友だち関係」「学校での学習・生活活動」「教職員との関係」「家庭学習・生活活動」などが学年に応じた具体的な内容で児童に示され、個々の学級・学年での児童なりの素直な気持ちが読み取れた。学校・学級・家庭は、子どもたちのためにあるべきもので、教職員や保護者の目の前の子どもたちへの、新たな目標と課題が明確になるものであった。1学期の評価の考察反省に基づき、学校・学年・学級の人的環境また指導環境が整えられてきている。児童と教職員とが良好な関係にある。なお家庭やP T A活動との連携を大切に進めていきたい。

◎保護者全家庭への「学校教育アンケート」は、「教育全般」「職員対応」「学年・学級経営」「学校生活」「健康安全」「P T A・連携」および自由記述の項目で実施され、解答率は86%であった。率直な評価と感想・意見の交換により、地域の学校としての役割を明確にし信頼関係が醸成される。今後は家庭やP T A活動との連携を深めていきたい。

II 具体的な評価と課題

以上の緒評価を踏まえての学校関係者評価委員会の評価は次のようなものである。

「教育目標」については、目標を具現化することへの教職員の意識は高い。管理職からのより具体的・明確な指針を示し、学年・学級での明確な取り組みへと浸透できるように工夫したい。保護者へは、より分かりやすい指針を示す機会をつくり、その理解と家庭での取り組みを期待したい。高度なマネジメントの発信は常に要求されるものである。

「学校経営・組織」については、教育目標の具現化のための職員会議の一層の活性化が大切である。分掌におけるリーダーは、協議すべき論点を明確にしたマンネリ化しない内容を整理して提案して、組織としてベストを尽くす活動につなげていきたい。ひとり一人の積極的な意見の交換が、理解と意欲と責任・行動に結びつく。適切な校務分掌は、お互いの信頼と力量の高め合いにより成り立つ。分掌内容の縮小への整理と精選は急務である。適材適所と互いの協同のもとに、負担量の適性を図りたい。

「学習指導」については、教職員が、全力投球している結果が現れている。児童も学習について教師と向き合っている。教職員の最も重要な仕事として苦悩と切磋琢磨の様子が読み取れる。児童の授業中の発言については、研究主題の「伝え合う力を育てるための指導法の研究」を実践的に生かし、一層の「言語環境」の整備のなかで、児童に言葉によるコミュニケーションの楽しさと、言葉の厳密性を学ばせ、自分らしい表現で伝え合う力を発達段階に応じて身に付けさせたい。読書の好き嫌いは個人差がある。克服に一つの方法はない。苦手な子も、必ず好きになるチャンスがあると期待したい。

「道徳」については、時数確保が課題である。道徳公開を生かして、保護者も期待している、良い性格の少年少女へと導いてほしい。保護者の関心を引き起こし、家庭での基本的しつけや思いやりのある生活姿勢の大切さをよみがえらせたい。

「特別活動」「学校行事」については、職員体制が整っていて、児童とともに、工夫した取り組みが見られ、児童の意欲が生かされている。

「生徒指導」については、生徒指導主任を中心に各学年・学級で、児童の問題行動には、素早い対応をして改善を図っている。児童の規範意識づくりのための教職員の日々の取り組みに成果が現れている。個々の児童が悩みを抱えているのか、教職員の多数の目で読み取る不断の努力を続けてほしい。悩める子は、他には簡単に相談できないものである。

「生活指導」については、今の子どもたちにとって、家庭での分担役割が少なくなり、学校でも清掃活動の苦手な子どもが多い。教職員の共通理解のもと、清掃は労働に繋がる教育の大切な分野と心得、全教職員で児童に掃除のやり方・用具の使い方まで、身を以て指導すべき分野である。家庭での生活のありようも課題となる。明るい挨拶のできる児童が増えている。児童の安全対策については、教育振興会等との連携を一層強めたい。

「PTA・地域社会」については、学校側から地域保護者へ適切な情報を提供している。評議員制度や学校関係者評価委員会の実績は不十分である。しつけや家庭学習など、具体的な課題について、学校評価を生かして教育を語ってほしい。開かれた学校づくりが進められている。どんな保護者も多かれ少なかれ、必ず教育や子育ての悩みを持っているものだ。さらに学校の人的垣根を低くする努力は必要だ。

「その他」については、保健・図書・事務・施設管理・安全管理とともに、適切に機能し課題を踏まえた取り組みがなされて、子どもたちの学習と生活に資している。

III その他の意見

評価項目について、必要に応じて、南アルプス市全体で共通の項目を設定評価し、各学校の特色と課題を明確にする必要がある。評価結果については、適切な内容と方法で課題を提示して、建設的な協議を経て、今後とも学校改善に生かしてほしい。評価結果について、一般に理解しやすいように、グラフ等で表すのもよい方法である。評価項目については、目的に応じて常に改善をしてほしい。今、社会問題となっている「携帯電話」等の問題についても、共通の課題として取り組んでほしい。

特別支援活動については、全職員の知恵と支援によって子どもの全面発達を促す立場から、常に全校児童を全職員で理解するという原則を堅持し、特別支援の会議は目的を明確にして、一歩でも理解・改善につながる内容にしてほしい。課題は複雑でデリケートな面があるので、考察・取り組み・振り返りを粘り強く続けて乗り越えてほしい。

しっかりした学校評価システムが、豊小の発展に生きていることを強く実感した。